

令和 3 年度

**荒尾市教育振興基本計画
令和 2 年度数値目標報告書**

令和 4 年 3 月

荒尾市教育委員会

荒尾市教育振興基本計画に基づく令和２年度の取り組み状況

基本目標１ 家庭や地域の絆の中で、「生きる力」の基礎をはぐくむ

【数値目標の達成状況】

指標名	目標値 (%)	基準値 (%)	第１期計画期間の推移				
		平成 28年度	平成 29年度	平成 30年度	令和 元年度	令和 2年度	令和 3年度
朝食を毎日食べている児童生徒の割合	95	83	84	92	94	—	94

※令和２年度については、「全国学力・学習状況調査」が中止されたためデータなし。

※令和３年度については、現時点で公表されているため参考値として記載する。

【主な取組状況】

- 家庭教育支援リーフレット「荒尾っ子のできるといいね」の普及・啓発、乳幼児健診時の栄養指導等の取組を通して「基本的生活習慣の確立」、「自立心の育成」、「心身の調和のとれた発達」の推進を行いました。
- 「早寝早起き朝ごはん」運動、「荒尾っ子のできるといいね」による啓発、「くまもと親の学び」プログラムにより規則正しい生活習慣の大切の周知に取組ました。
- 幼・保等、小・中連携協議会を設置し、幼稚園、保育所、認定こども園と小中学校との交流の機会を設け、共通理解や情報の共有化を推進しました。

【課題】

- 朝食を毎日食べる児童生徒の割合は、ほぼ目標値に近いものになっていますが、上昇傾向にあり、今後も子供たちを対象とした取組のほか、家庭環境など様々な事情による子どもたちの生活習慣及び食生活の乱れを改善するため、保護者に向けた規則正しい生活習慣の重要性を周知することが重要です。
- 幼保連携型認定こども園教育・保育要領や新学習指導要領等においても、各教育段階の円滑な接続の重要性が示されており、各教育段階において共通の視点や方向性を共有できるよう、さらなる関係機関の連携強化が必要です。

基本目標２ 自ら学び、自ら考え、自ら行動する力をはぐくむ

【数値目標の達成状況】

指標名	目標値		基準値	第１期計画期間の推移				
			平成 27年度	平成 29年度	平成 30年度	令和 元年度	令和 2年度	令和 3年度
全国学力・学習 状況調査正答率 (※)	小学校	全国平均を 上回る	上回る	上回る	下回る	上回る	—	上回る
	中学校		下回る	下回る	下回る	下回る	—	下回る

指標名	目標値		基準値 (%)	第１期計画期間の推移				
			平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和 元年度	令和 2 年度	令和 3 年度
自分にはよいところがあると思う児童生徒の割合	小学校 (%)	全国平均を上回る	73.3	76.2	80.3	79.4	—	70.2
			全国値 76.3	全国値 77.9	全国値 84.0	全国値 81.2	—	全国値 76.9
	中学校 (%)		59.3	66.1	76.1	71.2	—	75.3
			全国値 69.3	全国値 66.1	全国値 78.8	全国値 74.1%	—	全国値 76.2
学校に行くのは楽しいと思う児童生徒の割合	小学校 (%)	95	83	86	—	85.5	—	87.0
	中学校 (%)	90	81.4	75.2		81.4	—	82.6

※平成 30(2018)年度は全国学力・学習状況調査上で指標に関する設問が無かったためデータなし。

※令和 2年度については、「全国学力・学習状況調査」が中止されたためデータなし。

※令和 3年度については、現時点で公表されているため参考値として記載する。

指標名	目標値		基準値	第１期計画期間の推移			
			平成 28年度	平成 29年度	平成 30年度	令和 元年度	令和 2年度
体力テストについて (※)	小学校	全項目で 県平均を 上回る	86/96	66/96	64/96	73/96	—
	中学校		40/48	24/48	23/48	27/48	—

※（左側数値）平均を上回る項目数/（右側数値）全項目数

※令和 2年度については、「体力テスト」が中止されたためデータなし。

指標名	目標値 (%)	基準値 (%)	第１期計画期間の推移			
		平成 27年度	平成 29年度	平成 30年度	令和 元年度	令和 2年度
英検 3 級相当学力のある生徒の 割合(※)	30	13	24.5	30.1	18.9	30.2

※平成 29～30 年度は IBA による実績値、令和元年度は学校アンケート調査、令和 2 年度は公立中学校における英語教育実施状況調査（CEFR A1 レベル相当）

指標名	目標値 (校)	基準値 (校)	第1期計画期間の推移			
		平成 28年度	平成 29年度	平成 30年度	令和 元年度	令和 2年度
コミュニティ・スクール導入校数	7	1	2	2	3	3

【主な取組状況】

- 子供たちが主体的に学ぶ「あらおベーシック」授業を実施し、アクティブラーニングの具体的取組を推進しました。また、英語検定チャレンジ事業を中学1年生から、中学全学年の生徒に拡充し、英語への興味・関心の向上を図りました。
- 学力向上対策部会等を設置し、各学校の全国学力・学習状況調査等の検証及び指導助言を行い、学力向上の推進を図りました。
- 授業改善アドバイザー等の専門家の^{しょうへい}招聘等による校内研修の充実を図り、教職員の指導力向上に取り組みました。
- 世界文化遺産「万田坑」、ラムサール条約登録湿地「荒尾干潟」、「宮崎兄弟」など、各学校の地域性に応じた郷土の誇りを学ぶ取組を行い、豊かな心の育成を推進しました。
- スクールソーシャルワーカーの配置、適応指導教室の設置、心の教室相談員による教育相談の充実を図り、不登校状況等の改善を図りました。
- 体育授業や体育行事の取組により、学校教育全体での子供の体力向上を図るとともに、スポーツを通して自己肯定感の醸成や夢の実現を目指す子供の育成を推進しました。
- 地域とともにある学校づくりの実現に向けて、保護者や地域住民の教育への参画を促進するため、各学校へのコミュニティ・スクール（学校運営協議会）の設置に向けた取組を行いました。
- 本市教育 ICT 整備計画及び国の GIGA スクール構想に基づき、児童生徒一人一台のタブレット環境を整備しました。また市独自にスマートフォンなどで、使用されるLTEネットワークを全ての端末に導入した事で、校外学習や持ち帰り学習など幅広い活用を行うことが可能となりました。併せて、各教室へ電子黒板を設置し、指導者用デジタル教科書を導入するなど、ICT教育の充実に向けて環境整備を行いました。

【課題】

- 学力の状況について、近年、小学校の正答率は全国平均を上回っている状況にありますが、中学校においては、4か年通じて全国の正答率を下回っています。あらおベーシックを発展、進化させた「進化型あらおベーシック」の定着を促進し、学力向上への取組を加速化させる必要があります。併せて、専門家の知見も取り入れた授業改善に取組み、教職員の指導力の向上を図るとともに、ICT支援員等を配置し、ICT機器を

効果的に活用できるよう、各学校を支援する体制を整えることが必要です。

- 「自分にはよいところがあると思う児童生徒の割合」、「学校に行くのは楽しいと思う児童生徒の割合」はいずれも目標値に届いていない状況です。学びに向かう力や、夢や目標にチャレンジしようと思う意欲の源泉には、自己肯定感や自己有用感が深く関係していることから、幅広い体験活動や様々な教育活動を通じて、自己肯定感、自己有用感を育むことが必要です。
- 児童・生徒の体力・運動能力について、近年、本市は半数を超える項目で県平均を上回っている傾向にありますが、目標値（全ての項目で上回ることを）を達成できていない状況です。全ての子供が運動に親しみ、体力向上に積極的に取り組めるよう、体力向上に対する意識を高めるとともに、運動が苦手な子供が意欲的に取り組めるような授業の工夫や体育活動を活性化し、主体性を育むことを目指した教育を推進することが重要です。
- 英検３級相当学力のある生徒の割合は、目標値を達成した年度が出てきている状況です。英語教育の充実により、生徒たちの英語への関心意欲の二極化を防ぎ、英語の日常化を図る必要があります。また、指標の統一化を検討する必要があります。
- コミュニティ・スクールについては、令和３年度末までに全１３校への導入を予定しており、目標値を達成する見込みです。導入校においては、保護者や地域住民等の参画を促進し、コミュニティ・スクールの一層の推進を図る必要があります。

基本目標３ 生涯にわたって健やかに学び続ける人をはぐくみ、地域社会における教育力の向上をはかる

【数値目標の達成状況】

指標名	目標値 (人)	基準値 (人)	第１期計画期間の推移			
		平成 27年度	平成 29年度	平成 30年度	令和 元年度	令和 2年度
学校支援ボランティアの数	20,600	20,194	20,580	25,667	29,571	19,857
図書館の来館者数	50,830	49,139	42,630	45,311	41,276	28,582

指標名	目標値 (%)		基準値 (%)	第１期計画期間の推移			
			平成 27年度	平成 29年度	平成 30年度	令和 元年度	令和 2年度
教養・スポーツの場に関する満足度		37.0	31.5	32.0	33.5	31.5	35.3
運動習慣のある者の割合	男性	43	41.7	52.1	54.6	54.7	56.0
	女性	42	39.5	38.5	41.5	47.2	46.8

【主な取組状況】

- 地域と学校が連携・協働して取り組む地域学校協働活動については、コミュニティ・スクール事業と一体的に学校と地域の連携・協働を展開しました。
- 地域学校協働活動の推進に、地域が学校を支援するだけでなく、公民館講座への中学生ボランティアスタッフの協力など、学校が地域に貢献する活動も少しずつ拡大しています。
- 地域学校協働活動の中心的な役割を担う地域学校協働活動推進員のスキルアップや地域のボランティア人材の育成を目的として、令和2年度から県の事業を活用して講座を開催しました。
- 図書館においては、市保健センターの乳幼児1歳半健診時に行うブックスタート事業やコロナによる長期休校期間における放課後児童クラブ(学童クラブ)への図書の団体貸出などを実施し、乳幼児や子供たちの読書活動の推進に努めました。
- 生涯学習においては、中央公民館を拠点として、市民の多様なニーズに対応するため、コロナ禍の中での活動制限をふまえながらも、できる範囲でさまざまな講座の開催や、各種サークル活動の支援に努めました。中央公民館まつりについては、開催することはできませんでした。また、公民館サークルにおける中学校や市事業との連携の取組などは、コロナ禍の中できる範囲で実施したところです。
- 多くの市民が安全にスポーツに親しめるよう、荒尾運動公園施設長寿命化計画及び再配置計画に基づき、市民プールの循環浄化装置を改修し、施設の環境改善を図りました。

【課題】

- 学校支援ボランティアの数については、コロナ禍により令和2年度に減少したものの、それ以前は、地域学校協働活動や、コミュニティ・スクール事業の広がりにより、概ね目標値に到達している状況です。今後も、コミュニティ・スクールとの一体的な取組の拡充やそれに伴うボランティア人材の育成が求められています。
- 図書館の来館者数は、横ばいまたは微減の傾向にありましたが、令和2年度は、コロナ禍における閉館対応やイベント中止等が影響し、大きく目標を下回っています。令和4年4月には、商業施設への移転を予定しており、民間のノウハウも活用しながら、多様化する利用者ニーズに応じたサービスの充実が求められています。
- 教養・スポーツの場に関する満足度は、目標に到達していないものの、実績値は改善傾向にあると考えられます。引き続き、生涯学習の推進と学びの機会の充実に努めるとともに、スポーツに親しめる環境づくりを推進していくことが必要です。
- 運動習慣のある者の割合は、男女ともに目標に到達しています。新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、施設の閉鎖やスポレクあらお等の主要事業が中止になるなど、スポーツ事業が開催できませんでしたが、感染症状況等を考慮しながら各種事業

の実施を目指していきます。引き続き、スポレクあらお等の開催やスポーツ教室の充実に努めるとともに、小学校高学年を対象とした運動教室の取組などの多様なニーズに対応しながら運動習慣の定着を図る必要があります。

基本目標4 ふるさとの自然や伝統、文化を学び、誇りや愛着をもち、文化を通じた国際交流の推進をはかる

【数値目標の達成状況】

指標名	目標値 (%)	基準値 (%)	第1期計画期間の推移			
		平成 27年度	平成 29年度	平成 30年度	令和 元年度	令和 2年度
文化的な環境に関する満足度	45.0	34.2	39.3	43.1	41.9	35.3

指標名	目標値 (件)	基準値 (件)	第1期計画期間の推移			
		平成 27年度	平成 29年度	平成 30年度	令和 元年度	令和 2年度
宮崎兄弟の生家施設関連交流件数	17	14	18	19	12	0

【主な取組状況】

- 万田坑について、適切な保存管理を行うとともに、万田坑及び専用鉄道敷跡を含む「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」の世界文化遺産としての価値を国内外に広く発信しました。また、万田坑の価値や魅力を来場者にわかりやすく伝えていくため、ガイドの育成やスキルアップに取り組みました。そして、市内小中学校の学校教育においても、郷土学習の素材として活用し、子供たちの郷土への誇りや愛着心を育む取組を推進しました。
- 国・県・市指定文化財についても、地域や所有者と連携・協力しながら、適切な維持・管理の継続に努めました。また、令和2年度には、市が作成した調査報告書等に基づき、昔ながら様式を残していたことなどが評価され、野原八幡宮風流が、国重要無形民俗文化財の指定を受けました。
- 地域文化の進行のため、荒尾総合文化センター等を拠点として、市民文化祭を荒尾市文化協会と共催で開催するなど、文化の振興及び活動への支援に取り組みました。
- 宮崎兄弟の生家施設については、孫文記念館交流事業として、シンガポール孫中山南洋記念館・晩晴園と交流を重ね、令和元年度には共同報告書発刊及びイベントを開催するなど、宮崎兄弟と孫文の友情の歴史について広く発信しました。
- 中国清王朝の子孫の方から贈呈されたアサガオの種を小中学校に配布し、子供たちに荒尾市が「日中友好の地」であるということの周知を図りました。

【課題】

- 文化的な環境に関する満足度は、各年度、基準年度を上回ることができたものの、目標には到達していません。文化財の保存、活用、発信を推進するとともに、文化・芸術活動への参加機会の提供を促進する必要があります。
- 宮崎兄弟の生家施設関連交流件数について、近年は、コロナウイルス感染症の影響により事業開催を中止するなど、目標には到達していません。コロナ禍における新しい生活様式に対応したイベント開催のあり方について検討することが求められています。また、シンガポール孫中山南洋紀念館・晚晴園とは、これまでの学術交流から、学生間の国際交流など多様な交流へ発展させていく必要があります。

荒尾市教育委員会の事務の点検及び評価 教育振興計画R2数値目標報告書に関する概評

事務点検評価委員：宮辺 博幸

基本目標1：家庭や地域の絆の中で、「生きる力」の基礎をはぐくむ

今年度は、「全国学力、学習状況調査」の中止によりデータがなく、目標値との比較は出来ないが、「荒尾っ子の『できるといいね』」の普及、啓発、「早寝早起き朝ご飯」運動、「くまもと親の学び」プログラムの実践の結果として、「朝食を毎日食べている児童生徒の割合」は平成3年の数値からもほぼ目標値に近づいている。今後も家庭における規則正しい生活習慣の重要性の周知に取り組み、目標値の達成を目指していただきたい。

基本目標2：自ら学び、自ら考え、自ら行動する力をはぐくむ

今年度は、「全国学力、学習状況調査」の中止によりデータがなく、目標値との比較は出来ないが、「進化型あらおベーシック」の定着促進、ICT支援員の配置によるICT機器の効果的な活用等現在取り組んでいる事業等の充実により目標達成に努められたい。「英検チャレンジ」を全学年に広げたことが、英語への関心の高さ、学習意欲の向上に繋がり、英語検定事業英検3級相当学力のある生徒の割合は目標値に達している。今後も維持出来るようよう現在の取り組みを続けていただきたい。コミュニティ・スクールの導入においても、まだ目標値に程遠いことから、地域とともにある学校作り推進のためにも、学校、地域との連携を密にし、積極的に導入に取り組まれたい。

基本目標3：生涯にわたって健やかに学び続ける人をはぐくみ、地域社会における教育力の向上をはかる

コロナ禍の影響により学校支援ボランティアの数は減少したものの、地域と学校の連携・協働活動の増加により、学校支援ボランティアの数はほぼ目標値に達している。今後も人材の確保、育成のための取り組みを続けられたい。図書館来館者数は、新型コロナウイルスの影響もあり、目標値を大きく下回ってはいるが、読書活動推進のためにも、他施設等と連携した取り組みの充実により来館者増を目指していただきたい。市民の教養・スポーツの場に関する満足度は上がり、目標値に近づいている。さらに生涯学習、生涯スポーツへの取り組みを充実させ、拠点施設の老朽化に適切に対応しながら市民の満足度アップに繋げていただきたい。運動習慣のある者の割合は男女ともに目標値を大幅に上回っている。今後も、地域スポーツ、生涯スポーツの推進により運動の機会の創出、提供に努められたい。

基本目標4：ふるさとの自然や伝統、文化を学び、誇りや愛着をもち、文化を通じた国際交流の推進をはかる

本市は、文化的な環境に恵まれており、あらゆる方面からの取り組みにより、市民への周知、啓発が続けられ目標値の達成に繋げていただきたい。また、新型コロナウイルス感染症拡大防止の影響で宮崎兄弟の生家施設関連交流事業等はできなかったが、実情に応じた新しい事業の取組みを検討され、国際交流の推進に努めていただきたい。

荒尾市教育委員会の事務の点検及び評価 教育振興計画R2数値目標報告書に関する概評

事務点検評価委員：古江 佳織

基本目標1：家庭や地域の絆の中で、「生きる力」の基礎をはぐくむ

朝食を毎日食べている児童生徒の割合は、増加傾向で目標値に近づき、家庭へ向けた教育支援と啓発が効果的に機能したと評価する。目標到達においては、保護者の理解と実践力向上が重要であり、今後も就学前から小、中学校にわたり、児童生徒及び保護者に対して切れ目のない教育が提供できる支援の継続を期待する。教育分野の機関だけでは解決できない家庭の問題や習慣等もあり、保健分野等の関係機関と連携・協働に取り組んでいただきたい。

基本目標2：自ら学び、自ら考え、自ら行動する力をはぐくむ

中学校においては、学力・学習状況等の結果が全国平均を下回る現状だが、授業改善アドバイザーを活用した指導力の強化、学校に対しICT整備とその活用に向けた取り組み、英語検定受験の機会の確保など児童生徒が主体的に学ぶ環境が十分に整備されているため、今後に期待したい。また、コミュニティ・スクールが市内全校に設置予定とあり、学校・保護者・地域が共に子どもたちを育てる環境の充実も期待できる。引き続きこれら資源を十分に活用し目標達成へ努めてほしい。

基本目標3：生涯にわたって健やかに学び続ける人をはぐくみ、地域社会における教育力の向上をはかる

新型コロナウイルス感染拡大により、学校支援ボランティア参加減少はあるが、学校支援活動等の事業が機能しており、地域と学校・子どもたちが繋がる機会は充実している。また、コミュニティスクールの市内全校配置に伴い、今後も多くの地域住民の力が学校教育の支えになることを期待する。図書館利用について、感染の状況で来館者の減少はあるが、移動図書や乳幼児期へ向けた支援など取り組みが充実できているため、今後も住民のニーズに即した対応を期待する。教養・スポーツの場に関する満足後は目標値に到達できていないため、計画的な施設改修により生涯学習、スポーツの場の整備充実に努めてほしい。

基本目標4：ふるさとの自然や伝統、文化を学び、誇りや愛着をもち、文化を通じた国際交流の推進をはかる

新型コロナウイルス感染拡大状況において、対面での交流活動の計画・実施は困難であったことと思う。しかしながら、子どもたちが郷土の歴史を学び、施設ガイドとして活躍することで学びを発揮できるなど、郷土への誇りや愛着を育む取り組みができている。感染状況は続いているが、対策を講じ交流活動の実施を期待する。また、ICTを積極的に活用し、郷土学習や文化交流・市内外へ向けた啓発活動において満足度向上へ取り組まれることを期待する。自然災害が増加傾向にあり、文化財の保護へ向け取り組まれない。